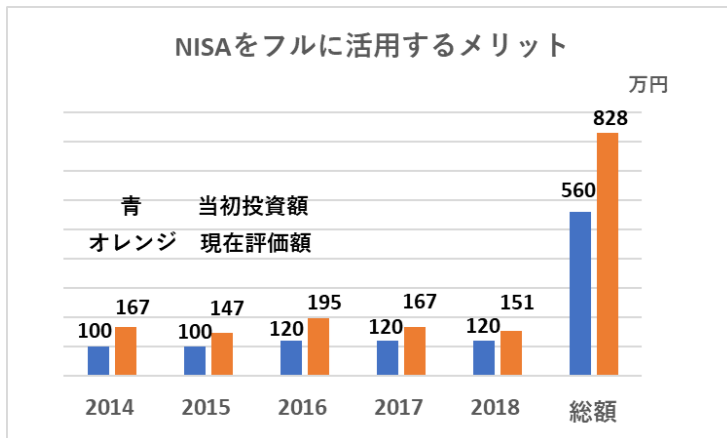


ATTENTION

資産運用は、こまめなことの積み重ね



このグラフは、なかなか興味深いものがあります。また見ていて思わずにんまり、これからもますます楽しみというものです。このグラフは、私どものお客様のNISAの実際の運用状況です。

このお客様は、NISA発足当初から、毎年5年非課税のNISA枠をフルに使い、最初に購入したものは、さらに5年非課税のロールオーバーの期間に入っています。運用している中身は、国際分散投資の投資信託ですが、5年の各年とも、元本は順調に増えています。現在では投資額560万円に対して、評価額は828万円。元本比で48%上がり、年率利回りにすると、8.35%となります。NISAの恩恵は、現在継続中ですが、いま換金した場合、828万円-560万円=268万円の利益について、20.315%の課税分(54.4万円)は非課税ということになります。仮にこの各年分をNISAの恩恵をフルに取り込み、10年間非課税で、8.35%で運用できたとすると、その合計額は1249万円となります。560万円の投資額で、その利益689万円が非課税ですから、本来の課税分140万円が「なし」となるわけです。資産運用は、こういったこまめなことの積み重ねです。ぜひNISA、iDeCo、積立NISAなどで非課税の恩恵を受けながら、資産形成に励むとよいでしょう。

COLUMN

コロナには、ビタミンDが有効？！

日光を浴びると生まれるビタミンD。最終的な結論には至っていないのですが、現在、多くの研究の結果、このビタミンD不足とコロナウィルスの関係が指摘されています。米国での研究によると、ビタミンDを十分取っている人に比べ、不足している人のコロナウィルスに感染する比率が1.77倍だったというのです。米国、EU、英国の医療・栄養研究機関は、特に冬の十分なビタミンDの摂取を推奨しています。

ビタミンは多く取りすぎてもよくないのですが、ビタミンDの適正摂取量は1日15~20マイクロ(μ)グラム(70歳以上は20μグラム)、最大許容摂取量は1日100μグラムとのことです。

ビタミンDが不足すると、コロナに感染しやすいという研究結果があるそうです。スペインでの治験によれば、ビタミンDの摂取を受けた50人のコロナ患者の中で、2人が集中治療を受け、誰も死亡しなかったのに対して、ビタミンDの摂取を受けなかった26人のコロナ患者のうち、13人が集中治療を受け、2人が死亡したという結果が出たとのこと。ビタミンDはコロナ治療に明らかに有効という結果が出たそうです。そして、今後さらに多くの患者を対象に治験を進めるそうです。

ビタミンDは免疫機能をサポートする役割があるようで、ビタミンDの不足は、コロナ感染リスクを高める高血圧や糖尿病を助長するとの多くの研究結果もあり、さらにコロナの重症化、死に至るリスクを高めるというのです。ビタミンDの不足を補う食品は少なく、日光からでも十分ではなく、サプリメントから補うのがよさそうです。

(情報ソース:米ウォールストリートジャーナル)

MARKET

	(11月末)	(10月末比)
日経平均	26,433.62円	+3,456.49円 (+15.04%)
NYダウ	29,638.04ドル	+3,137.04ドル (+11.84%)
米ドル	104.31円	-0.39円 (-0.37%)

今月の言葉

今日、幸せへのカギは生化学システムの手にある。

「幸せは身のうちより発する」
永続する幸福感は、セロトニンやドーパミン、オキシトシンからのみ生じる。

-サピエンス全史、ユヴァル・ノア・ハラリ

著しい日本企業の競争力劣化

ついに飛ばなかった「国産初のジェット機」。いまでも鮮明に覚えている2008年の三菱重工決算説明会。私はこの説明会にいたのですが、ここで当時の西岡会長が、高らかに「国産初のジェット機を、2013年に飛ばす」と発表したのです。大変夢があり明るい話で、日本の技術力からすれば、問題なくできる、ぜひ飛ばしてほしいと思ったものです。

ところが6回もの延期。最終局面では裏で幕引きに向けた動きがみられる始末で、発表から12年、1兆円をドブに捨てました。まさか国産ジェット計画が没になるとは、思っても見ませんでした。海外の反応は伝わってきませんが、日本は自力でジェット機も飛ばせないのかと、内心想っていることでしょう。中国は、エアバスに国内工場を作らせ、ほとんど真似て国産ジェット機を立ち上げました。これまで、カナダ、ブラジルは、三菱が作ろうとしたサイズのジェット機はとっくに生産しています。今回、日本は、これらの国でできているものができないということが明らかになったのです。

一部報道によれば、国産ジェット機の話を持ち掛けたのは経済産業省。ここでも、発端は役人です。お粗末なことに、国土交通省には、機種認定をするノウハウがなく、その審査が滞ったとのこと。それでも、役人は国産ジェット機が頓挫した責任は負わず、いつも通りほうつかむりです。

次はコロナワクチン。年内にも米国ファイザーと独バイオテクノロジーのBioNTech、モデルナ、英国アストラゼネカが開発するコロナワクチンが出てくるとのことです。中国、ロシアのコロナワクチンの効き目は定かではありませんが、すでに広く出回っています。ここに、いまのところ、日本の医薬

企業が出る幕はなし。カナダのトルドー首相が「わが国にはコロナワクチンを開発する力はない」と嘆いたそうですが、日本は嘆くこともなくコロナワクチンを確保できて、ほっとしている有様です。一方で「開発するワクチンを急いで承認して副作用が起きては大変」と言い訳とも聞こえる発言をする専門家もいます。それでいながら、1年で開発したコロナワクチンを広く使うのですから、辻褄が合いません。要は、日本には開発力がないということです。

ただこれは、企業ばかりの責任ではありません。厚生労働省の役人氣質からみれば、コロナワクチンの承認は、多分におっとり刀での臨み方になることでしょう。日本で開発されるコロナワクチンが、来年中に承認されるか疑わしいところです。そうしているうちに、日本のコロナワクチンも十分に効く効能があったといいながら、海外発のワクチンで事足りるという顛末ではないでしょうか。

また、日産とルノーの統合を嫌った経済産業省と日産の国内経営陣がもくろんだゴーン追放のクーデター。このドタバタ劇の中でのコロナ禍。結局は、自ら墓穴を掘ることになった日産の経営の今後が大いに危ぶまれます。

さらに、パナソニックの凋落など、日本企業の世界での競争力の劣化は救いようがないところまで来ています。これは、日本企業の「井の中の蛙、大海を知らず」だけでなく、役人の「自分たちが出なければ動かない」という完全な思い違いによるところ大といわざるを得ません。役人は余計な口を出さずに、民間がビジネスをやりやすいように規制緩和に励むのが、自らの役割とわきまえるべきです。

まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に売っていただくのではなく、お客様にもっとも適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス
代表 尾藤 峰男

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386

携帯：070-5567-3311

電子メール：info@bfsc.jp